

久内清孝*: 群馬縣野反池採集記**

Kiyotaka HISAUCHI*: Vegetation of Lake Nosori, Gunma
Prefecture

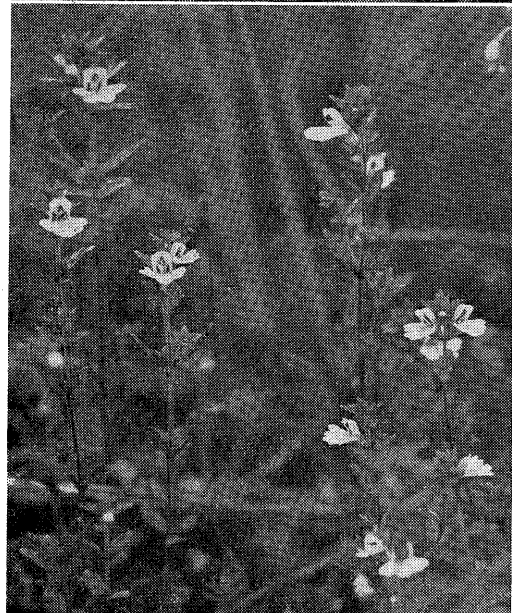
草津温泉の北北東約 10 km, 上信國境近くに位置する野反池^{ノソリ}は近く発電工事のため貯水池の底に没する運命にあるので, 服部静夫博士の御勧めによつて本年 7 月 27 日亘理俊次, 原寛, 幾瀬まさ, 黒澤幸子諸氏と同行して同地を訪れた。1929 年 9 月大井次三郎博士は同地でノソリホシクサを採集發表されたが, 手近にはまとまつた報告がないのでここに記録を残しておく事にした。池の水面は海拔 1478 m で, 周囲は山にかこまれ東には 1934 m の八間山, 西側も 1909 m, 他は 1600 m 内外の丘陵があり, 池は北に開口し中津川の水源をなし遂に信濃川に注いでいる。ブナ帯の上部に位するか北方を除き森林はなく, ダケカンパの小さい木立が二, 三箇所見られる外は, 池の周囲の丘はすべて丈の低い草原でおおわれていて非常に明るい感じがする。

草原の大半は笹原で, 殊に本年は笹が一齊に開花し遠望すると汚褐色に見えて他の部分とはつきり見分けられた。笹原は植物の種類がきわめて少いが, 他の草原はニツコウキスゲ, ノハナショウブ, イブキトラノオ, クガイソウ, ヤマブキシヨウマ, ハクサンフウロ, マツムシソウ, アオヤギソウ, ウラゲコバイケイ, ツリガネニンジン, ワレモコウ, クルマユリ, ミチノクカラマツ, トリアシヨウマ, エゾリンドウ, シオガマギク, オオバギボウシ, イタドリ, アキノキリンソウ, オニアザミ, ミヤマコンギク, ヤマハハコ, ハナニガナ, ヒトツバオモギ, ミヤマコウゾリナ, クロズル, ススキ, オオバシヨリマ, ワラビ等がまじり美しい御花畑をなしている。所々に灌木状のダケカンバ, ヤハズハンノキ, ノリウツギ, レンゲツツジ, ナナカマド, ズミ, ヤマウルシ, シモツケ, ツリガネツツジ, ミヤマホツツジ, ミヤマザクラ, キツネヤナギ, ミネヤナギ等が點在する。又裸地の周りや稍乾いた場所にはコケモモ, シラタマノキ, ウスノキ, ウスユキソウ, ミヤマニンジン, ノギラン, ネバリノギラン, ミツバオウレン, キジムシロ, イワカガミ, ショウジョウバカマ, ヤマトキソウ, ミヤマウシノケグサ, ヘビノネゴザ, マンネンズギ等矮性のものが生じ, ハナゴケ類の地衣が多い。

池へ注ぎこむ小さな流れの傍や西岸には大形草本群落があり, シシウド, オニシモツケ, イブキトラノオ, ヤナギラン, ワレモコウ, ハンゴンソウ, タムラソウ, ゴマナ, マルバダケブキ, オタカラコウ, エゾオオバセンキユウ, ウド, イタドリ, ヤマヨモギ, ヤグルマソウ, クガイソウ, ノハナショウブ, ニツコウキスゲ, アオヤギソウ, キンバイソウ, ミチノクカラマツ, ハクサンフウロ, シラネアザミ, ヒメアザミ, ヤマトリカブト, センジュガンピ, ヒメシロネ, オオバシヨリマ等が生えている。

* 東邦大学植物學教室, Botanical Institute, Tôhō University, Chiba, Pref.

** 本文は亘理俊次, 原 寛, 幾瀬まさ, 黒澤幸子の諸氏と共同調査したものを編集したものである。



上、野反池全景、下右、池畔のコケスギラン、下左、池畔のホソバコゴメグサ

池畔には濕地が發達しているが、場所によつてその状態や植物の種類は様々である。ヨシを主體としている所もあれば、*Carex*, *Juncus*, *Eleocharis* 等が多く、ミズドクサ、サワギキョウ、クロバナノウゲ、ヒメシロネ、ホソバノヨツバムグラ等を交える所もある。所々にヒオウギアヤメ、ワレモコウ、コバギボウシ、ミズチドリ、ミズギク、ワタスゲ、サギスゲ、ノダイオウ等が群落をなしている。又ミズゴケ濕原もあり、ヒメシヤクナゲ、ツルコケモモ、イワイチヨウ、モウセンゴケ、チングルマ、マンネンズギ、ホソバノキソチドリ、コバノトシボソウ、キンコウカ、イワシヨウブ、ハクサンチドリ、サワラン、コツマトリソウ、ホソバコゴメグサ、オクヤマオトギリ、コケスギラン、ミカズキグサ、ミヤマイヌノハナヒゲ等が生えている。ミネヤナギ、エゾシオガマ、オクヤマガラシ等もあり、泥砂上にイトキンボウゲ、ヒメタヌキモ、ノソリホシクサの见られる場所もある。又浅い池中にオヒルムシロやミツガシワが漂っている部分もある。

全體として植物の種類は多いとはいえないがしかし狭い地域の濕原としては北方系の濕原植物が可成り豊富であるといつてよい。特に本州では少數の産地しか知られていないイトキンボウゲ (*Ranunculus reptans* L. var. *flagellifolius* Ohwi), コツマトリソウ (*Trientalis europaea* L. var. *arctica* Ledeb.), ヒオウギアヤメ (*Iris setosa* Pallas), ヒメタヌキモ (*Utricularia multispinosa* Miki), ホソバコゴメグサ (*Euphrasia japonica* Wettstein), ノソリホシクサ (*Eriocaulon nosoriense* Ohwi), コケスギラン (*Selaginella selaginoides* Link), ミズドクサ (*Equisetum fluviatile* L.) が産するのは分布上注目される。イトキンボウゲとコツマトリソウは今迄本州では尾瀬地方が西限と考えられているもので、野反池は更に西南へよつた新産地である。又コケスギランやホソバコゴメグサはもつと高い山地に、しかも稀に見られるものであるが、ここでは池畔の濕地に群生している。ミズドクサは塗り枝をうたず貧弱である。又ヌマガヤ、ヤマドリゼンマイが少い事は意外に感じられ、ありそうに思われて見當らなかつた種類も多い。針葉樹は唯1本遠望しただけである。この地域は裏日本との境にあり、まだ北國要素は餘り多くは入りこんでいないが、それでもチョウジギク、オニアザミ、ホソバノコゴメグサ、トリアシシヨウマ、クロズル等が見られる。野反池は北方系植物分布の研究に重要な資料をあたえる場所であるから、水底に沈む以前に十分調査記録しておく必要がある。

次に池及びその周邊の斜面で採集した高等植物約 170 種の目録をかける。

〔羊〕(トクサ科) スギナ, ミズドクサ, (ヒカゲノカズラ科) アスヒカズラ, マンネンズギ, (イワヒバ科) コケスギラン, (ウラボシ科) ミヤマメシダ, ヘビノネゴザ, オオバシヨリマ, ワラビ, (ゼンマイ科) ヤマドリゼンマイ, 〔離〕(ヤナギ科) ミネヤナギ, ナガバヤナギ, キツネヤナギ, (カバノキ科) ヤハズハンノキ, ダケカンバ, (タデ科) イブキトラノオ, イタドリ, ノダイオウ, (ナデシコ科) センジュガンピ, (キンボウゲ科) ヤマトリカブト?, ミツバオウレン?, ミヤマキンボウゲ, イトキンボウゲ, ミチノクカラマツ, キンバイソウ, (アブラナ科) オクヤマガラシ, (モウセンゴケ科) モウセンゴケ, (ユキノシタ科) トリアシシヨウマ, ノリウツギ, ウメバチソウ, ヤグル

マソウ、(バラ科) ヤマブキシヨウマ、クロバナロウゲ、オニシモツケ、ズミ、キジムシロ、ミヤマウラジロイチゴ、ワレモコウ (花穂の長さ4cm に及ぶものある)、チングルマ、ナナカマド、シモツケ、ミヤマザクラ、(フウロソウ科) ハクサンフウロ、(ウルシ科) ヤマウルシ、(ニシキギ科) ツリバナ、クロズル、(オトギリソウ科) オトギリソウ、オクヤマオトギリ、ミズオトギリ、(スミレ科) タチツボスミレ?、(アカバナ科) ヤナギラン、(ウコギ科) ウド、(セリ科) アマニユウ、シシウド、エゾオオバセンキユウ、イブキゼリ、ミヤマセンキユウ、ミヤマニンジン〔合〕(イワウメ科) イワカガミ、(ツツジ科) ヒメシヤクナゲ、イワナシ、ハナヒリノキ、シラタマノキ、アクシバ、ツリガネツツジ、コヨウラクツツジ、ツルコケモモ、ムラサキヤシオツツジ、レンゲツツジ、コメツツジ、ミヤマホツツジ、サラサドウダン、ウスノキ、コケモモ、(サクラソウ科) コツマトリソウ、(リンドウ科) エゾリンドウ、イワイチヨウ、ミツガシワ、(シソ科) ヒメシロネ、エゾシロネ、(ゴマノハグサ科) ホソバコゴメグサ、シオガマギク、エゾシオガマ、クガイソウ、(タヌキモ科) タヌキモ、ヒメタヌキモ、(アカネ科) ホソバノヨツバムグラ、(オミナエシ科) ハクサンオミナエシ、(マツムシソウ科) マツムシソウ、(キキョウ科) ツリガネニンジン、サワギキョウ、(キク科) ヤマハハコ、チヨウジギク、ヤマヨモギ、ヒトツバヨモギ、ゴマナ、ミヤマコンギク、オニアザミ、ヒメアザミ、ミヤマコウゾリナ、ミズギク、ハナニガナ、シロバナハナニガナ、ヤマニガナ、ウスユキソウ、マルバダケブキ、オタカラコウ、シラネアザミ、キオン、ハンゴンソウ、タムラソウ、アキノキリンソウ〔單〕(ヒルムシロ科) オヒルムシロ、(イネ科) コミヤマヌカボ、ヤマヌカボ、タカネコウボウ、シロトグシバ、ヒメノガリヤス、イワノガリヤス、ヒゲノガリヤス、オオヒゲガリヤス、ヒロハノコメススキ、ミヤマウシノケグサ、ススキ、ヌマガヤ、ヨシ、ミヤマスズ、(カヤツリグサ科) ミノボロスゲ、タテヤマスゲ、カワラスゲ、ヤチスゲ、ミタケスゲ、シバスゲ?、カワズスゲ、オオカサスゲ、サギスゲ、ワタスゲ、オオヌマハリイ、シカクイ、ミカズキグサ、ミヤマイヌノハナヒゲ、クロアブラガヤ、(ホシクサ科) ノソリホシクサ、(イ科) エゾホソイ、ヒメイ、ホソコウガイゼキシヨウ、ヤマスズメノヒエ、(ユリ科) ネバリノギラン、ギョウジヤニソニク、シヨウジヨウバカマ、ニツコウキスゲ、オオバギボウシ、コオニユリ、クルマユリ、ノギラン、キンコウカ、オオナルコユリ、イワシヨウブ、アオヤギソウ (暗紫花品を見ず)、ウラゲコバイケイ、(アヤメ科) ノハナシヨウブ、ヒオウギアヤメ、(ラン科) サワラン、ハクサンチドリ、ミズチドリ、コバノトンボソウ、ホソバノキソチドリ、ヤマトキソウ

以上はわずか数時間の間に一行が手分けをして集めた採品であり見落したものも多いと思われる。また池の北側は踏査の暇がなかつた。今後同地へ行かれこの目録に洩れたものを採集された方は御通知下されば幸である。なお隠花植物については各専門家に同定をお願いしてある。

終に今回の採集旅行に多大の御援助を戴いた服部静夫博士に深く感謝します。